

- 問1 1871年から派遣された岩倉使節団が、当初の目的であった「条約改正の予備交渉」を断念せざるを得なかった背景として、最も適切な理由はどれですか。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
1. 当時の日本には近代的な法律が十分に整備されておらず、欧米諸国から法治国家として認められなかったため。
 2. 日本国内で徴兵令や地租改正への反対一揆が激化し、交渉を継続できる情勢ではなくなったため。
 3. 欧米諸国が日本に対して、関税自主権の回復よりも先にキリスト教の布教自由化を強く迫ったため。
 4. 岩倉具視が交渉中に病に倒れ、全権大使としての役割を果たせなかったため。
-
- 問2 明治時代の文化において、高村光雲が伝統的な木彫技法に西洋の技法を融合させて「老猿」のような作品を制作した背景として、当時の芸術の動向を正しく説明しているものはどれですか。 (2017年 群馬県公立入試 類似)
1. 中国やインドなどアジア諸国の古典的な技法を導入し、西洋美術に対抗するための東洋連合の様式を作ろうとした。
 2. 日本独自の伝統をすべて否定し、石材やブロンズを用いた西洋と全く同じ彫刻様式への完全な転換を目指した。
 3. 欧米の文化を取り入れつつ、日本の伝統的な美術の価値を再評価し、独自の近代美術を確立しようとした。
 4. 江戸時代の浮世絵の技法を彫刻に応用することで、大衆向けの娯楽としての美術を普及させようとした。
-
- 問3 明治政府が地方に「県令」を派遣して行った統治の仕組みについて、その目的や背景を説明した文として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2023年 福岡県公立入試 類似)
1. 外国の圧力に対抗するため、軍事権を各県の知藩事に分散させるため
 2. 旧藩主の権限を維持したまま、地方の武士による自治を認めるため
 3. 江戸時代の藩校を再編し、各地域で独自の教育制度を維持・発展させるため
 4. 中央政府の意向を全国に徹底させ、近代国家としての統一的な支配を確立するため
-
- 問4 明治政府が1872年に群馬県に官営模範工場として富岡製糸場を設立した主な目的と、その背景について説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 岡山県公立入試 類似)
1. 士族授産の一環として、廃刀令で職を失った武士に伝統的な手作業による絹織物の技術を習得させるため。
 2. 欧米諸国からの輸入品に頼っていた鉄道車両や蒸気機関を、すべて国産化するための技術拠点を確保するため。
 3. フランスなどの先進技術を導入して高品質な生糸を生産し、外貨を獲得して日本の近代化を支えるため。
 4. 日清戦争後の賠償金をもとに、軍需産業を支えるための鉄鋼生産を国内で自給自足できるようにするため。
-
- 問5 板垣退助らが提出した「民撰議院設立の建白書」において、当時の明治政府の政治体制はどのように批判されていましたか。その内容として最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 天皇の権限が制限されすぎており、国家の統制がとれていない
 2. 一部の官僚が権力を独占し、国民の意志を無視した専制政治を行っている
 3. 外国の圧力を受け入れすぎており、日本の主権が侵害されている
 4. 地方自治の権限が強すぎるため、中央政府の命令が届かなくなっている
-
- 問6 下関条約によって日本が清から譲り受けた遼東半島について、ロシアを中心とする3国が清へ返還するよう求めた出来事の背景と、その後の日本への影響として適切な説明はどれか。 (2020年 愛媛県公立入試 類似)
1. アメリカが東アジアの平和維持を名目に介入し、日本はこれを受け入れる代わりに韓国の併合を国際的に認めさせた。
 2. イギリスが日本の勢力拡大を警戒して主導し、日本はこれに抗議するために清からさらに多額の賠償金を得ることで妥協した。
 3. ロシアが自国の東アジア進出を有利にするためにに行い、日本では返還を屈辱として「臥薪嘗胆」を合言葉にロシアへの対抗意識が高まった。
 4. フランスが清の領土保全を目的として提案し、日本は遼東半島を返還する代わりに樺太の南半分を領有することになった。
-
- 問7 明治時代後半、日本の紡績業は大きな転換期を迎えました。1890年代の統計において、綿糸の生産体制や貿易状況の変化を説明したものとして、最も適切な内容を選んでください。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
1. 重化学工業の発展に伴い、機械工業による綿織物の生産が急増したが、原料となる綿糸については依然として輸入が輸出を上回り続けた。
 2. 伝統的な手工業から機械を用いた大規模な工場生産へと変化したことで、1890年代後半には綿糸の輸出量が輸入量を上回るようになった。
 3. 政府による輸入制限の結果、手工業による綿織物の生産が再び盛んになり、1890年代前半には国内自給率が100%に達した。
 4. 明治初期から一貫して機械工業による綿糸生産が行われていたが、労働力不足により1890年代後半に輸出量が初めて輸入量を下回った。
-
- 問8 明治政府が確立した帝国議会の仕組みとその背景について述べた文として、適切なものはどれですか。 (2018年 高知県公立入試 類似)
1. 国会期成同盟の結成により、天皇の権限を一切認めない国民主権の議会制度が直ちに導入された。
 2. 自由民権運動による国会開設の要求を受け、大日本帝国憲法において貴族院と衆議院から成る二院制が定められた。
 3. 下関条約による賠償金を得たことをきっかけに、軍事予算を審議するための専門機関として初めて設置された。
 4. 政党政治を完全に否定するため、すべての国会議員を華族から選出する貴族院のみで構成された。
-
- 問9 明治時代初期に、欧米の制度や技術が導入されることで起こった「文明開化」と呼ばれる社会現象について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)
1. 都市部を中心に活動写真（映画）が普及し、民衆の新しい娯楽として定着した。
 2. 国民に情報を広く伝えるため、東京放送局によるラジオ放送が開始された。
 3. 江戸時代からの伝統を維持するため、飛脚による通信網をさらに強化した。
 4. 前島密らによって近代的な郵便制度が整えられ、新橋・横浜間で鉄道が開通した。
-
- 問10 明治時代後半の日本の重工業化について、官営八幡製鉄所の立地条件と当時の資源状況を説明した文として、正しいものを次のうちから選びなさい。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
1. 鉄鉱石の国内産出量が極めて少なかったため、輸入に適した港があり、燃料の石炭産地にも近い北九州に建設された。
 2. 日本は鉄鉱石を自給できていたが、精錬に必要な質の高い石炭をすべて中国から輸入する必要があったため、北九州に建設された。
 3. 国内の鉄鉱石と石炭の産出地がともに九州地方に集中していたため、加工から輸出までを一貫して行うために建設された。
 4. 日清戦争に勝利したことで大陸の資源を独占できたため、原料の輸送コストを無視して、軍事拠点に近い福岡県に建設された。
-
- 問11 1871年から約2年間にわたって欧米諸国に派遣された、岩倉具視を特命全権大使とする大規模な使節団の目的について、欧米の進んだ制度の視察とともに掲げられていた事柄はどれですか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
1. 領土問題解決のためのロシアとの国境画定交渉
 2. 大政奉還を諸外国に周知するための外交報告
 3. 江戸幕府が結んだ不平等条約の改正交渉
 4. 日朝修好条規の締結に向けた事前調査